

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105516		
法人名	有限会社 幸生		
事業所名	グループホーム明日香		
所在地	岡山県岡山市東区九幡44-5		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105516-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新しい職員・正看護師を迎え、医療面も更に充実し職員も信頼関係が築け、仕事に対するモチベーションが上がってきています。事業所の理念(笑顔・挨拶・誠実・思いやり)を実践し、ご利用者が安心して穏やかに生活できるよう、自分は何をすれば良いか？自分で課題を見つけチームケアに結び付け、よりよい支援ができるよう職員一同頑張っていきたいと思えます。ご家族・地域の方の交流を大切にしながら気軽に立ち寄れる場所として、地域の中で根付いて行けたらと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明日香」の玄関を入ると「笑顔」と書いてある額と「笑いこそが百薬の長」のポスターがすぐ目に入る。このホームの理念をそのまま地で行くように、9人の利用者は男女問わず、笑顔が多く仲が良い。元気な人が多い分、お互いの自己主張が交錯することもあるが、職員の上手な軌道修正でその場が落ち着く。H25.10月から計画作成担当者が前任の退職の後を受け、管理者を兼務している。職員も新旧の入れ替わりはあったが、ここ2年間で定着してきつつある。職員は男性4人、女性4人の常勤職員に正看護師も1名加わり総勢9名のスタッフがいる。今は、医療面も充実してきたので、これからは「利用者に寄り添える職員」としての個々のスキルアップを目指し、人材育成に力を入れていきたいと管理者は抱負を語ってくれた。また、以前に比べ徐々にではあるが、地域や家族の理解や協力も得られるようになった。地域との“絆”を深め、「地域の人の相談する場所」としてのホームの役割に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共通理解し、職員同士・入居者・地域の方・来訪者に対して、挨拶・笑顔を忘れずそっと寄り添えるよう実践につなげている	玄関に「笑顔」の額を掲げ、施設における5S(整理・整頓・清掃・誠和・習慣)の活動を基本にして、職員間で理念を共有しながら温かいグループホームを目指して日々の実践に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が手作りの野菜・花等を持参して下さったり、季節に合わせた花壇の手入れも行ってくれます。回覧・ゴミ(不燃物)等も協力して下さいます。来訪時はホールにて入居者の方に声をかけて下さいます	中学校が実施している廃品回収に協力している。地域の人達の訪問時にはお茶を飲んで一緒に話をしてもらう等、交流を図っている。年3回発行している「明日香だより」を町内で回覧してもらいホームの存在を地域の中へ根づかせる為の努力をしている。	近隣の地域同士の関係修復に一役買うような役割を担っているホームの存在は大きいと思う。「明日香だより」の中に認知症に関する「一口メモ」を入れて、地域に向けて情報発信してみるのも良い。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進委員会・地域の方のボランティア活動を通じて認知症を理解して頂き支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進委員会において、2ヶ月ごとの行事報告・介護保険・入居者の様子等報告・共通理解して頂き、今後の支援につなげている。また参加者からの新しい情報を得ている	市の担当者、地域包括サブセンター職員、町内の方、老人会々長、家族等の参加があり、2ヶ月に1回、開催している。南海トラフ地震の津波災害に備え、避難場所、方法等を参加者と話し合い、情報交換をする等、活発な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の敬老会に参加させて頂いたり、地域包括・事業指導課の方の地域推進委員会参加頂いたり、介護保険・支援につまずいた時、相談・助言をいただいています	運営推進会議には毎回、市の担当者の出席があり「地域の人が相談する場所になるように」との助言がある等、日頃から話し合っている。また、何かあるといつでも電話等で相談をし、助言、指導をもらう等、良好な協力関係を築いている。	ホームの存在が地域の中で理解され「地域の人が相談する場所」として浸透していく為の具体的な方策を職員間で話し合い、行政とも協力しながら実現していくって欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者・全ての職員が共通理解しており、安全に生活して頂けるよう工夫しています	男性利用者が外に出たことがあり、安全の為、瞬間的拘束はあるが、職員がそっと寄り添いコミュニケーションを取りながら支援している。日常的に玄関の施錠はしていないが、ドアの開閉時には音が鳴る仕組みにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行なわれないよう、職員同士支援方法を確認しながら常に注意をはらい、防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等について、これから学んでいかなければいけない。入居者で利用されている方もいるので折に触れ学ぶ機会を見つけ、理解し情報提供できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は十分な説明を行い、不安・疑問が生じないよう理解・納得をさせていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に何でも話せる・相談できる雰囲気作りにも気を配っている。年3回家族に状況のお知らせを送っており、信頼関係も築けてきている。意見・要望は職員間で話し合いに反映させている	毎月、利用料を持参する家族や運営推進会議に参加する家族とは直接話し合う機会もあるが、訪問回数の少ない家族には、年3回、本人の生活の様子、健康状態等の状況報告の手紙を出している。その他電話で連絡を取り合い、家族と何でも話し合える関係は出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は職員からの意見等、日々の申し送り、月一回行われるミーティングにおいて個々の意見が出せるように配慮し反映させている	月1回、社長も参加してミーティングをしている。カンファレンス、行事計画等話し合いながら、職員間で情報共有や意見交換をしている。勤務年数の浅い職員も多いので管理者は今後は職員の人材育成に向けて研修等を検討しているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員、個々の努力や実績状況を把握し、職員がやりがいを感じ向上心を持って働けるよう働き掛けています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識している。全ての職員の質の向上を目指しており、ケアの技術面・利用者とのかわりについて指導を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学・職場内での仕事の悩み解消など、事業所外の人材との交流を作り意見交換したり、経験をケアに活かしサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、ご本人の困っている事・不安な事・何を望まれているか見極めよりよい関係づくり出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には当ホームを理解して頂き、困っている事・不安を取り除けるよう関係を築いていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭的な雰囲気をお大切に安心して生活できる場であることを理解して頂き、家族の必要時は助言・情報交換を随時行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様はおお客様であると同時に暮らしを共にする者同士の関係を築き共感と受容をお大切にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆をお大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は連携をお大切に、家族と本人の絆をお大切にしながら家族との連絡を密にして、共に支えていけるよう関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大切にして思い出の人・場所の関係が途切れない様家族と連携し支援に努めています	家族、友人が訪ねてきてくれる人もいますが、ホームでの生活が長い人は自宅に一時帰宅しても、ホームに帰ると笑顔になり「ここが一番いい」と言ってくれる人もいます。ここでの仲間や生活が利用者にとっての馴染みの関係や場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格・趣味を把握しよりよい関係が築けるよう配置等にも配慮し、ご利用者同士関わりがが持てるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了してもこれまでの信頼関係を大切にしながらひつように応じて相談・助言ができるよう支援に努めて行きます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の気持ちを尊重し、寄り添いながらその人なりの暮らしが継続できる様に意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討しています	軽度の人には自分の思いをはっきり言葉で意思表示する人もいるが、重度化した人には「何がしたいのか」表情や仕草から本人の思いを汲み取り、一人ひとりに寄り添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ会話の中から家族の方から情報を収集し、よりよいサービスが提供できるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態・残存能力の把握に努め自立支援ができるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がよりよく暮らすためにアセスメント・モニタリングを行い、必要関係者の意見アイデアが反映され原状に即した介護計画を作成しています	ケアプランの作成、モニタリングを定期的に行っている。利用者の状態に合わせてプランを作成し、流動的支援をしている。計画作成担当者は昨年10月から管理者も兼務しており、以前からの課題であった書類の様式や記入方法を改善していく努力をしているところである。	ケアプランの様式は現行のままで、「ここで何がしたいか」「何が楽しみか」等、利用者の思いや希望を具体的な言葉に換えて、目標を設定してみると、実現しやすいプランになるのではと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケア・実践・結果・気づきが記録にでき、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族のニーズに対して必要時には通院送迎・買い物・散髪ボランティア等、支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮し安全で豊かな生活を楽しむことができるよう、自立した生活の実現を支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人及びご家族の希望を大切にしています。身体状況に合わせ適切な医療が受けられるよう支援しています	かかりつけ医の月2回の訪問診療があり、訪問歯科も来てくれる。受診は家族に付き添いをお願いしているが、殆どの方は職員が同行する事が多い。インシュリン注射が必要な人には月1回、必ず職員が受診同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中での情報や気づきを共有し、必要時は看護師に相談し、ご利用者の適切な受診・看護を受けられるよう支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように情報提供を行い病院関係者との関係づくりを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が重度化した時、又終末期の在り方について早期よりご本人・ご家族の思いを大切に話しあっております。事業所でできる事、方針を十分に説明し納得して頂いています。又地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます	開設以来、ホームでの看取りの事例はない。新しく看護師資格のある職員も入り、今後は本人・家族からの要望があり、医療的問題がクリア出来ればかかりつけ医、家族とも相談、連携をとりながら取り組んで行こうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え職員一同、応急手当や初期対応への訓練を行い、実践力を身に付けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、避難訓練・避難経路の確認を定期的に行っています	この地域は河川のすぐ傍であり、水害の危険度も高く、防災用備品として「救命胴衣」を9名の各居室に配置し、職員3名分も確保している。年2回の避難訓練も消防署立会いの下、実施しており、地域の人の参加もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉がけや対応に努めています	一人ひとりの思いや嗜好等も尊重し、喫煙が習慣だった人には、職員が付き添いの上、外での喫煙を支援している。また、排泄や入浴の時はバスタオルを掛ける等、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者が自己決定出来るような声かけ、本人の思い・希望が表現できるように場面づくりに職員一同気を配っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調・気持ちを常に重視しご希望に沿った支援ができるよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・入浴時の着替えも声かけにて一緒に用意し、自己決定を心がけています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、下膳等できることは行って頂き、メニューの希望も取り入れ、職員と一緒にテーブルを囲み食事を楽しむ支援を行っています	ほとんどの利用者が自分の箸で食事をしており、全介助の人はいない。誕生日と来客のある日は「お寿司」のメニューだそうで、季節の香り豊かな菜の花の和え物と一緒に美味しく頂いた。食後は調理場までお膳を持っていく人もいる等、出来る範囲でお手伝いをしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・栄養バランス等一人ひとりの状態に合わせ支援を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを知って頂いて、食後はご利用者に合わせ、声かけ・セッティング・介助と支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに座って頂き、排泄を促すように職員間で排尿時間・パターンを把握しトイレ誘導を促し自尊心を配慮しながら爽快感が味わえるよう支援を行っています	便秘気味の人にはヨーグルトや果物の摂取、運動等に気を配り、排泄チェック表で個々のリズムを把握しながら声掛け・誘導をしている。排泄は自立出来ている人、布パンツの人、パットも利用している人等、様々だが職員は一人ひとりに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日・量・質を記録、自然排便を促すようヨーグルト・バナナ等、定期的に提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日3名、バランス良くゆっくり入って頂けるように支援を行っている。暖かい日等はご自分でシャワーを希望される方もおられ、見守りにて対応しています	入浴は1日に3人を基本とし、3日に1回は入浴してもらっている。重症化している人にはシャワー浴、足浴等で清潔保持をしている。中には男性職員を拒否する人もいるので、職員は一人ひとりの希望に添った対応をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣・その日の体調に合わせて日中のお昼寝、また夜間安心して睡眠できるように空調・室温・水分等気を配っています。不穏時には寄り添い入眠を促しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者が服用している薬について、目的・副作用・用法・用量について理解し誤薬を防ぐため、職員二人で確認・飲み忘れを防ぐために口に入れて飲み込むまで確認しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるよう出来る事の支援(食事の下ごしらえ・洗濯たたみ・新聞たたみ・モップがけ等)役割を持って頂いている。ご利用者の生活歴や力を活かした役割・お茶・お花・野菜作り等地域の方・職員と共に生きがいにつながるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候に合わせて施設周辺に散歩に出かける。玄関先にて外気浴を行っている。年一回の敬老会は地域の方・家族の方の協力にて参加しています	重症化が進み、車椅子で玄関前の庭での日光浴、外気浴を楽しむ人の方が多いが、元気な人は職員と一緒に西大寺観音院の花見や初詣に行ったり、日常的には近所の神社や散歩にもよく出かけている。特に男性の利用者は外に出るとよく話をする人が多いそうだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のお小遣いは事務所にてお預かりしています。ご本人の希望のある時は買い物をしています。受診の時は自販機にてコーヒー・お茶等を買う方もおられます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じてやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用の空間作りを心がけています。玄関のお花・絵などの気配り・テーブル椅子等の配置。ホールには季節感が出るような工夫をしています	桜の貼り絵作品、ぬり絵等、利用者の手作り作品が掲示してあるリビングルームは広く開放的である。窓際で利用者が栽培している鉢植えのプチマトは青い実をつけており、熟したら皆に食べてもらうのを楽しみにしている。それぞれが思い思いに過ごせる憩いの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はご利用者の関係性や相性を配慮しご利用者の了承の上あらかじめ決めていますが、レク活動の時は席を移動し楽しく過ごせるように配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご利用者の好みの物・使い慣れたものをご家族と相談し持参して頂いたり、以後事良く過ごせるよう工夫しています	各居室にはトイレと洗面台が設置してあり、プライバシーの配慮もしてある。使い慣れたタンス、サイドボード、仏壇、人形等を持ち込んでいる人もいて、懐かしい生活の匂いを醸しだしていた。全員の居室に入ってすぐ横の壁には黄色の「救命胴衣」が掛けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして身体状態に合わせ、安全で出来る限り自立した日常生活が送れるよう支援していきます		